

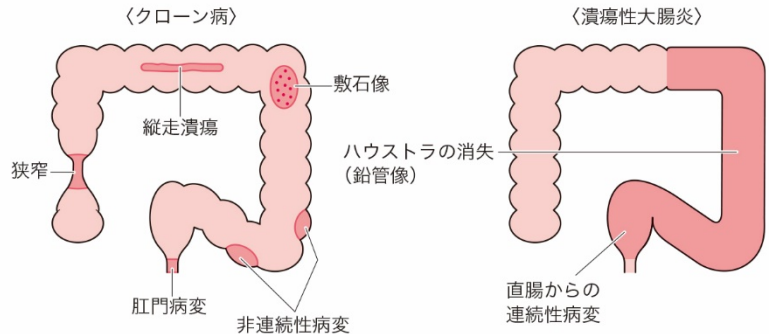
## 正 誤 表

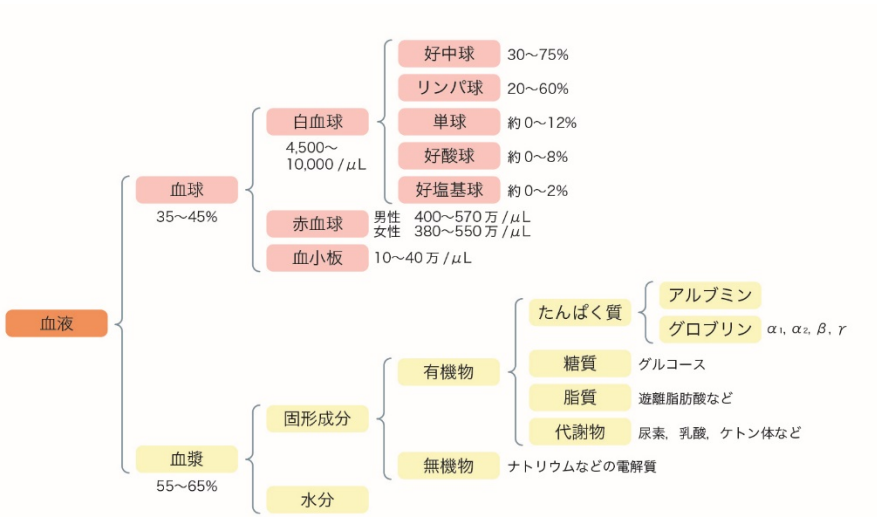
「健康・栄養科学シリーズ 臨床医学（第1刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

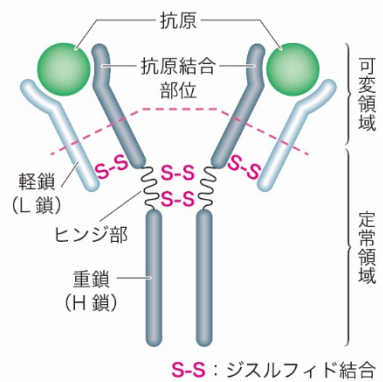
頁	該当箇所	誤	正
2	3行目	様々な疾病にかかりやすくなる素因	様々な疾病の素因
2	図 1-1 の図説	テロメア DNA	テロメアの DNA
3	脇組 リソソーム 4 行目	糖質など生体高分子	糖質などの生体分子
4	脇組 線維化 5 行目	膠原線維	組織の線維
10	12 行目	傷害では、腺上皮から重層扁平上皮への扁平上皮化生	傷害では、 <u>多列線毛上皮から重層扁平上皮への扁平上皮化生</u>
63	6 行目	移植片対宿主反応 (GVHD)	移植片対宿主病 (GVHD)
70	練習問題 Q4	GVHD (移植片対宿主反応)	GVHD (移植片対宿主病)
82	図 4-4 タイトル	内臓脂肪・腸間膜・肝臓	内臓脂肪の例
82	図 4-4 図説	(追加)	内臓脂肪とは、腸間膜などの脂肪細胞に蓄積している脂肪のこと。
86	下から 2 行目	神経症	神経障害
87	4 行目	神経症	神経障害
87	下から 5 行目	75g 経口グルコース負荷試験	75g 経口ブドウ糖負荷試験
99	下から 5 行目	食事療法 (飲酒含む)	食事療法 (飲酒制限含む)
102	1 行目	必須脂肪酸	必須アミノ酸

110	<p>図 5-3</p>	<p>図差し替え</p>	<p>修正箇所① 両図とも（主）膵管，副膵管を描き直し  修正箇所② （右図）ファーター乳頭の引き出し線を修正  修正箇所③ （右図）総肝動脈⇒腹部大動脈  修正箇所④ （右図）門脈と総胆管と引き出し線を追加  （詳細は図を参照）</p> <p>図5-3 胆道系の構造</p>
-----	--------------	--------------	--

117	図 5-9	図差し替え	<p>修正箇所 潰瘍性大腸炎：赤色範囲修正（肛門部分を除外） （詳細は図を参照）</p>  <p>図5-9 クローン病, 潰瘍性大腸炎の特征的所見</p>
172	20 行目	0.8kg/kg標準体重/日	0.8g/kg標準体重/日
173	表タイトル	RIFLE 分類 (7 日以内に診断)	RIFLE 分類
200	20 行目	(Schwan) 鞘	(Schwann) 鞘
208	15 行目	脳波検査により確定診断される	脳波検査により診断される

269	13章の概略図	図差し替え	<p>修正箇所 白血球, 赤血球, 血小板, 好中球, リンパ球, 単球, 好酸球, 好塩基球の数値を変更 (詳細は図を参照)</p>  <pre> graph LR     血液 --&gt; 血球     血液 --&gt; 血漿     血球 --&gt; 白血球     血球 --&gt; 赤血球     血球 --&gt; 血小板     白血球 --&gt; 好中球     白血球 --&gt; リンパ球     白血球 --&gt; 単球     白血球 --&gt; 好酸球     白血球 --&gt; 好塩基球     血漿 --&gt; 固形成分     血漿 --&gt; 水分     固形成分 --&gt; 有機物     固形成分 --&gt; 無機物     有機物 --&gt; たんぱく質     有機物 --&gt; 糖質     有機物 --&gt; 脂質     有機物 --&gt; 代謝物     たんぱく質 --&gt; アルブミン     たんぱく質 --&gt; グロブリン     糖質 --&gt; グルコース     脂質 --&gt; 遊離脂肪酸など     代謝物 --&gt; 尿素、乳酸、ケトン体など     無機物 --&gt; ナトリウムなどの電解質   </pre> <p>概略図 血液成分</p>
-----	---------	-------	---

273	脇組 TIBC の 4 行目	TIBC は血中で鉄に結合できるトランスフェリンの総量を示し、UIBC は鉄と結合していないトランスフェリンの量を示す	TIBC は血中でトランスフェリンに結合する鉄の総量を示し、UIBC は鉄と結合していないトランスフェリンに結合する鉄量を示す
278	19 行目	溶血性貧血には、先天性と後天性があり、先天性溶血性貧血には遺伝性球状赤血球症、サラセミアなどがあり、後天性溶血性貧血には機械的な原因、免疫性、発作性夜間血色素尿症などがある。そのなかで、37℃の環境において赤血球に結合する温式抗体による自己免疫性溶血性貧血が最も多い	溶血性貧血の原因は、先天性と後天性を含め多くみられるが、最も多いのは、37℃の環境において赤血球に結合する温式抗体による自己免疫性溶血性貧血である

292	図 14-1	図差し替え	<p>修正箇所 可変領域, 定常領域の範囲を修正 (詳細は図を参照)</p>  <p>The diagram illustrates the Y-shaped structure of an IgG antibody. It consists of two heavy chains (重鎖, H鎖) and two light chains (軽鎖, L鎖) held together by disulfide bonds (S-S). The tips of the Y are labeled as antigen binding sites (抗原結合部位) where antigens (抗原) bind. The upper part is the variable region (可変領域), and the lower part is the constant region (定常領域). A hinge region (ヒンジ部) is also indicated. A legend below the diagram states 'S-S: ジスルフィド結合'.</p> <p><b>図14-1 IgG 抗体の構造</b></p>
306	表 15-3 ウイルス SARS コロナウイルス と麻疹ウイルスの間	(追加)	インフルエンザウイルス/RNA ウイルス/インフルエンザ (病原体/分類/疾患名の順)

2021年9月10日  
株式会社南江堂